

contents

| | |
|---------------------------------|---|
| 教育課程審議会答申とこれからの教育とコンピュータ・・・中山和彦 | 1 |
| '98夏! スタディインストラクター研修会が開催されました | 5 |
| 盛況! スタディノートメーリングリスト | 6 |
| STUDY SERIES ニュース | 7 |



教育課程審議会答申と これからの教育とコンピュータ - 新指導要領とCAI・スタディノート・総合的な学習 -

中山 和彦

これは、去る6月27日 - 28日、東京市ヶ谷で行われたスタディインストラクター研修会における講演を編集担当が文章にいたしました。

ここでは、どうしても皆さんに認識しておいてもらいたいことを述べたいと思います。

まず第一番目に、今年度中に小中学校の学習指導要領の原案が発表されるというような話がでております。学習指導要領が変わると、ほとんどの先生方は、何がなくなった、今まで何年生にあった何が、何年生になったということにしか興味がないのです。おそらく、今度の学習指導要領改定でも同じことではないかと思えます。そういった先生方には、極端に言いますと、今の学習指導要領のどこが問題で改定されるのか、次の学習指導要領のどこが重要なかわかるはずがないと思えます。

学習指導要領の改定とCAI

学習指導要領について考える時、やはり、教育の目標ということを変えて考える必要があると思えます。学校の一番の目標、学校でしなければならない一番大切なことは何かというと、それは、基礎基本の習得です。すべての子供に基礎基本を完全に習得し

てもらおうことが、学校の仕事のうちで最も大切なことであり、やらなければならない責任でもあるわけです。

教育課程審議会が新しい指導要領について、6月22日に「まとめ」を出しました。審議会の会長が、テレビなどで、今度の学習指導要領の中心は「教える学校から学ぶ学校への変換」だとして懸念に言っています。しかし、現行の指導要領でも「自ら学ぶ主体的学習」といった形でそれは既に言われています。次の指導要領では、それがさらに中心になって、大切にされていくということです。先に述べたように、学校での一番大切なことは、基礎基本を身につけてもらうことです。子供が学んで身に付けるものの第一は、基礎基本であるわけです。CAIが目標としているのは、一人ひとりの完全習得学習です。完全習得学習とは、1950年代末から1960年代にかけて主としてアメリカのカリフォルニア学派によって提唱されました。ブルームの教育過程などが日本でも受け入れられたことをご存知の方も多いと思えます。学習者各

お知らせ ECO Newsのホームページに掲載板を作りました。

会員の情報交換にお役立て下さい。たとえば、スタディ関係の研修会の予定や実施報告を載せて下さい。また、これから秋の研究授業、研究発表会を予定されている学校も多いと思えます。日程が決まったら、まず、掲示板に載せて全国の先生方へお知らせ下さい。

人のその時その時の学習状態をモニタリングして、それを基に必要な情報をフィードバックし、必要な指導を必要な時に適切に与えて行くことによって、完全習得学習を実践しようとするフォーマティブエバリュエーション(形成的評価)が強調されたことがありました。フォーマティブ、学習のプロセスの途中でチェックして問題点などを見出してちゃんと正しい方向へ直してやる、そのためのエバリュエーション、評価です。ところが、紙と鉛筆でのエバリュエーション(評価)は、常に結果のエバリュエーションにしか過ぎない。過程の評価はできません。紙と鉛筆のテストをやっているのは、形成的評価は困難なのです。だから、エネルギーを使う割に効果が上がらなかったのが、形成的評価ということも日本では言われなくなってしまいました。学習過程のデータが採れてそれを基に形成的評価ができるようになったのは、コンピュータが教育に利用されるようになってからです。CAIは、この形成的評価に基づく完全習得学習を可能にしたのです。

今、CAIというコンピュータの使い方は古いというようなことがよく言われます。教育工学をやっている人たちのほとんど全員がそんなことを言っています。コンピュータが教育に利用されるようになってから、そんなに長い時間がたっていない、せいぜい30年ぐらいのものです。それがもう古いと言われる。ところが、学校の仕事が、基礎基本を完全に習得してもらおうということにあるのなら、そのツールとしてのCAI、道具としてのCAIは、絶対古くなるはずかないのです。CAIが古いと言う人たちの中には、たえず新しいことを言っていないと自分の存在価値がないかのように感じて、わけのわからないことを言っている人もいます。私たちのやっているのを見て、これはCAIではないと言った人もいますが、私たちはずっとCAIと言って来ました。あくまで基礎基本の習得が学校の第一の使命である以上、そのための助けをするコンピュータをよりよい形で使って行くことが肝要です。名前はどうでもいいのです。私たちのCAIもマルチメディアなど、新しいツールを使って、より簡単にコースウェアもできるよう進んでいます。一人ひとりの子供に応じた完全習得学習を目指すことは、これからもやって行かなければならないことであり、もっともっと大切にしていきたいことだと思っています。学校でのコンピュータ利用のあり方の一方には、完全習得学習を目標としたCAIがある。それは、指導要領が改定されても変わらない。では問題は何かというと、基礎基本とは何かということです。どれが基礎基本なのか、何が基礎基本かというのは、人によって意見が違います。これが基礎基本だということで議論をさせたら、きりがなくなってしまいます。ですから、日本の学校で学習すべき基礎基本というのは学習

指導要領に示されているものと言うしかないので。学習指導要領に示されていないものは、日本の学校では基礎基本ではないということになります。たとえば、台形の求積がなくなりました。台形の面積を出すのは簡単な応用なのだそうです。

学習指導要領の改定をやる度に内容の精選とか厳選とか言われます。今度の改定では切捨てだという話もあります。昔も精選といって一所懸命やったけれども、結局内容が増えてしまいました。厳選といって今度は、3分の1削ると言っています。何を基礎基本とするのか、学習指導要領に盛り込むのかは、教科調査官の趣味というか考えというのがずいぶん働いています。私が小さい時には、仮分数のままだと×でした。それが、今、仮分数のままでも認めている教科書があります。なぜ認めているかということ、単位分数という考え方を強調したためです。何分の1という単位分数のいくつ分だというのだから、そのまま仮分数でいいのだそうです。でも、3メートルのテープを7人で分けるといったいどれだけの長さになるかという時、3を7で分けるから7分の3というのではどうもお気に召さならしい。1メートルという単位を7つに切った7分の1、それを3メートルだから×3、だから7分の3とういのが正しいのだそうです。子供がなんと言ったかということ、「7分の3メートルなら使えるけど、7分の1メートル3つももらったんじゃ使えないや。」調査官に、この子供にどう答えるかを聞いてみたら、「それは数学の考え方だから」と言っていました。私は、実用と違うものを子供に押し付けてそれではなくてはだめだというのは、おかしいではないかと言ったことがありました。

そういったことはともかく、学習指導要領に示されている内容、基礎基本が全員の子供に完全に習得できる助けになるためのCAIの重要性は、先にも言いましたが、永久に変わらないと考えています。

新学習指導要領とスタディノート

スタディノートは、子供が自分たちで新しい考え方を作り上げていく、やっていくことを助けるための道具、情報活用能力、情報リテラシーに対する道具です。CAIとスタディノート、この2輪でしばらく我々は走ってみたいと思います。ところで、スタディノートのようなネットによるコミュニケーション、いわゆるオンラインミーティングをやっていると、大切になってくるのがオフラインミーティング、実際に顔を合わせての活動です。パソコン通信のニフティにはいろいろなグループがあります。その中で活発に活動しているグループは、よくオフラインミーティングをやっているようです。オフラインミーティングとは一体どんなものなのか知りたくになりました。そこで私のところにシスオペをやっているのがおり

ましたので、一緒にオフラインミーティングへ行って見ました。待ち合わせの時間に指定のところへ出かけていくわけです。来ている人は、みんな顔を知らない。でもそこで長年の仲間のようにやっていました。オンラインではなくて、オフラインで顔を合わせるといことが、人と人とのコミュニケーションには大切なんだなあと思感しました。余田先生のところで集められているスタディノートの実践報告の中でも、コンピュータ上だけではなくて、お互い同士のオフラインミーティング、実際の話し合いが大切なことや、学習の成果を上げているということが報告されています。そういった意味でオンライン、オフラインを考えていく必要があります。

私は、スタディノートは実はまだ相当恐い道具だなと考えております。余田先生は、少し違うように考えられていらっしゃるかもしれませんが、私はスタディノートの授業を見せていただくと、先生の力量がそのままもろに見えてしまうという印象を受けます。子供に、普段から自分達で調べ学習をして自分達で考えたことをまとめるといったことを全然やっていない先生が、ノートを使った授業をしても、そうすぐにうまくはいかないのではないのでしょうか。もっとも、実際に使っているのを見ると、たとえ先生が悪くても、子供がちゃんとやってくれるている、子供がカバーして何とかうまくいっているという場合もあるようにも思います。とにかくスタディノートを使ってみてください。そして、いろいろとやって見てください。

学校教育とインターネットについて

今、コンピュータというと、インターネットということがいわれます。アメリカの小学校のほとんどにインターネットが繋がっているという話が聞えてきます。調べてみると、8割以上のアメリカの小学校にはインターネットが繋がっているようです。普通インターネットのターミナルは一本だけです。そこで、一体学校のどこにインターネットに繋がったコンピュータが置かれているかということ、ほとんどの場合が図書室です。日本では、どうなるのでしょうか。先週ある県の教育長に会いました。来年あたりは、うちの県でも何とか一つの学校に一本のインターネットが繋がりそうですということでした。それは結構なことだ、おおいにがんばってくださいと言いました。ついでに、「ところで、そのインターネットを繋いだコンピュータはどこに置くのですか」と聞きましたところ、指導課長が、「そうですねえ、校長室か職員室に...」。それでは学校に置いたことにはならないのです。アメリカでは、多くの学校で図書室にボランティアのおばちゃんがあります。小さい学校でも大抵います。そのおばちゃんたちが子供に読書指導をしたり、小さい子供には本を読んであげたり、あるいは、子供たちが調べ学

習をする手助けをしています。また、子供たちの本の貸出し、返却の助けなどもしています。そうした図書室にインターネットのターミナルがあって、子供たちがそのボランティアのアドバイス、助けなどを借りながら、自分達でインターネットを利用する、そういったシステムになっているのです。コンピュータをどこに置いたら子供たちが使えるのか考えていかなければなりません。

アメリカの学校でのインターネットの活用を見ると、英語はいいなあと思います。なぜなら、アルファベットの数は少ししかありませんし、一部の例外を除いて、極端にわかりにくい文章というものありません。ですから、小学生でも上級生になれば、インターネットで呼出した役所の文書に知らない単語が出てきても、辞書を引きながら読むことができます。日本の場合、実はインターネットで情報を取っても、小学校5・6年生ぐらいで使えるものというのがとても少ないのです。国立環境研究所というのがつくばにあります。そのホームページを子供が調べたら、さっぱり分らない。まず、漢字がわからない。漢字は何とか一所懸命辞書で調べたとしても全体の文章がわかりにくい。なかなか大変だなと思いました。

文部省は2002年までに、インターネットを全部の学校に敷くといっています。先生方の中にもインターネット、インターネットと言って、インターネットさえ入れば、学校の問題はすべて解決し、未来社会は到達するというようなことを言っている人もいます。けれども、現状を見てみると、学校でのインターネットの使い方というのは、一体どうなのかなあとしみじみ思うことがあるのです。アメリカの副大統領のゴアがインターネットは「子供がいきなり専門家と話ができる、やり取りができる」と言っています。これがとても心配なのです。つくばの小学校でインターネットを使った研究授業がありました。その時、参加された先生方が大変に感心された授業の一つが、3年生だったか、国語の授業でした。全国にはいろいろな種類の凧があるといったようなことが教科書に載っていて、それでは、どんな凧があるのが調べてみよう、子供たちが調べた結果を発表するという授業でした。ある児童たちは図鑑で調べたり、お家の人に聞いたりしました。あるグループは、各県の観光課へインターネットでメールを送って「おたくの県ではどんな凧がありますか」と問い合わせました。そうしたら、長崎県の観光課から「長崎凧の名人がいます。」と返事が来ました。その人のところにはインターネットがないから、手紙を書いて聞いてみるとよいと住所と名前を教えてくださいました。そこで、子供が手紙を書いて送ったら、その名人は感激して、凧の作り方などを

漢字には全部ルビを付けて説明した手紙と一緒に、長崎県を送ってくれました。子供は大喜びです。その時来られた先生方もさすがインターネットだと感心されていました。私はちょっと待てよと思いました。その教科書のシェアから考えて、もし、同じ教科書を使っている3年生の3分の1ぐらいが同じことをやったらどうなるか、ぞっとしますね。県の観光課が大変です。パンクするのではないのでしょうか。何千もの手紙が長崎県の名人のところに飛込んだら、その方は印刷したものを送り返すだけでも大変なことになるのではないのでしょうか。私だったら、毎日全国の子供から10通ずつメールが来たら、もうお手上げです。子供一人一人質問の内容は違っているだろうし、ちゃんと答えなければならぬでしょうから。

こうしたやり方で、学校でのインターネット活用がもてはやされると、大変なことになってくるぞと思います。インターネットをどのように授業に取り入れて使うかは、よく考えて行かないと困ると思います。ホームページを上手に使うなどは一つの例です。また、今、こねっとプランというのがあちらこちらで非常に迷惑をかけているようです。こねっとプランでは、インターネットが使えないので、フェニックスを使ったテレビ会議というのがはやっています。そこで、人気の高い北海道の学校や沖縄の学校では方々からテレビ会議をやってくれといわれて困り切っているところがあります。

総合学習にふさわしい教材

今度の指導要領の改訂で話題を集めている総合学習について述べておきたいと思います。これは、実際には非常に難しいと思います。たとえば、以前、理科について中学校で1と2に別れているのを一緒にしてしまえばというのがありました。ところが、実際にやろうとすると、担当する先生がいないのでだめでした。高等学校では、ジェネラルサイエンス(一般科学)をやろうとして何回も試みたけれども、やはりだめ。それが、今度はいろいろな教科を総合的に学習をする、しかも、その学校独特のものを考え出せとは、まあ、大変なことになるでしょう。そんなことをやっていると世界のテストで、日本は知識面もだめになってきたなどという話になりかねないと思います。

私は、総合学習の一番いい題材はふるさと学習、ふるさと研究だと思います。また、ふるさと学習というのは、環境教育の一番重要なものだとも思っています。実は、去年の秋から今年にかけて環境教育指定校の研究授業をいくつか見ました。環境教育は、Think globally Act locally などと言われて世界的な視野から考えていかなければならないというので、小学校、中学校のほとんどのところが、ボルネオ、インドネシアの山火事をやっていました。あるいは熱帯雨林

の伐採を取上げていました。そして、緑資源が地球からなくなってしまうので、森林を燃やしたり熱帯雨林の伐採はやってはいけないというのが結論でした。

私は、環境教育という言葉が1972年に日本で最初に使った者ですけれども、そういう環境教育というのは、ちょっと違うと思うのです。環境教育というのは、環境について考え、どうすれば人類がこれから長い間この地球上で生存し続けていけるか、その方策を考えるものだと考えています。人類が地球上で永遠に生延びることは絶対にありえないことです。天文学的な数字になりますが、太陽はいつか爆発します。その時、地球上の生命はすべてなくなってしまいます。しかし、そうなるまでの間、地球上で人類がどれだけ長い間、文化的な生活を保って生き長らえることができるか、そのためには今、どうしなければならないか、それが環境教育です。

環境教育に重要なことは、環境倫理です。情報にも情報倫理がありますが、倫理とは、人と人とのつきあいをルール化したものです。環境倫理というのは、環境と人類とのつきあい、環境と自分とのつきあい方です。そして、自分を取り巻いているものすべてが環境なのです。人と人との付き合いも環境です。自分と、それ以外のものが調和してどのようにお互いに生きていけるか、しかも、文化的な生活を続けていけるかこれが重要なのです。

今、環境教育の授業でよく取上げられているボルネオ、インドネシアでどうしてあのような森林火災が起きたかということ、あれは、火をつける人達がいるからです。どうして、火をつけるのかということ、森の中のラワンなどの金になる木は、もうみんな切られてしまっています。あとに残っているのは雑木ばかりです。雑木は金にはなりません。日本でも、間伐材は人手がかかる割には金にならないから間伐作業をしなくなっていますが、彼らも雑木は金にならないから、乾季に林に火をかけて更地を作ってしまう。そしてそこに新たに金になる作物を植えるのです。たとえば、油ヤシを植えます。油ヤシならば2年から5年ぐらいでお金になります。つまり、ほかに収入を得る手段がないから、森に火を付けて更地を作り、換金作物を植えて収入にしようとしているわけです。現金収入を得て少しでも文化的な良い生活をしたいのです。戦後の日本が、山の木を切っても更地はならないから、木を切る代りに海を埋立てて、コンビナートを作って発展してきたようにです。環境教育で熱帯雨林を守れと言う時、自分達は先進国で豊かな生活をしながら、そこに本当に生活している人々のことを考えてはいません。しかし、開発途上の国の人々が自然環境を守るために、いつまでも不便で非文化的な生活を強いられていて良いというわけではありません。環境教育というのは、すべての人が文化的な生活を環境と調和しながら

できるだけ長くこれからも続けて行けるように環境倫理を身につけることです。

Think globally といって、よその国の森林破壊がけしからんと言うよりも、今、自分達が住んでいる場所がどういう場所であったか、そこでは昔どういう生活が営まれていたか、今とどう違うか、それはなぜか、というふるさと学習の方が大切だと私は思います。そして、こうしたふるさと学習は、社会科にもなれば国語にもなります。たとえば、北海道では、鮭が川を上ってくる量を記録したデータがあります。これをもとに子供にグラフを書かせてみます。そうすると、初

めは上ってくる鮭の量に波がある。多い年もあれば少ない年もある。それが、ある時から急に量が増えていることがグラフから読取れます。それは何故か、子供が話合う、いろいろ考える。社会科であり、算数のグラフの授業でありという総合学習です。私は、総合学習として一番良いのはふるさと学習だと思います。そして、それは環境教育としても一番良いものではないかと思えます。子供たちは、こうした学習を通して自分のふるさとはずばらしいものだ、また、大きくなったら帰ってきたいところだと考えるのではないかと思えます。

'98 夏!

スタディインストラクター研修会が 開催されました

6月27日～28日、東京市ヶ谷のシャープ株式会社OAプラザを会場にインストラクター研修会が開催されました。北海道から沖縄まで、各地の先生方31名が参加されました。研修は、この6月に教育課程審議会のまとめとして出された教育課程の基準の改定に明記された総合的学習について、特に具体例として挙げられている「情報」とスタディの位置づけと展開についての東原先生から講義でスタートしました。続いて、余田先生の総合的学習とスタディノート展開について、実践例を紹介しながらの講義、中山先生の総括と講義が続いた後、情報交換会が開かれて第一目が終わりました。二日目は、午前中、東原先生からスタディマルチメディア教材の新動向の紹介、研修会にご参加の長野県の丸山先生、宮城県の高橋先生からコンピュータやインターネット導入時におこる物的、人的トラブルとその対処法の報告があり、午後からははいよいよ、各グループに分かれて今年の研修計画作成作業に入りました。そして最後にそれぞれの研修会の基本方針が発表されて、研修会は終了しました。インストラクター研修会を年一度の「同窓会」のように考えていらっしゃる(?)ご常連のスタディベテランから今年初めて参加された方まで、これからの「暑いスタディの夏」に向けて真剣な研修が行われました。今年のスタディ研修会は、計画段階で、全体に期間が短くなる傾向が見られました。そうした中で、効率的に研修を進めるために、研修会のツールとしてスタディノートを有効に活用することが提案された研修会がありました。

なお、インストラクター研修会参加者名簿&地域研修会の予定とインストラクター研修会場の様子を写した写真は、ECO News ホームページの「研修会のページ」に載っています。



受講生・講師・スタッフ勢揃い



東原先生



余田先生



先生、
がんばって!

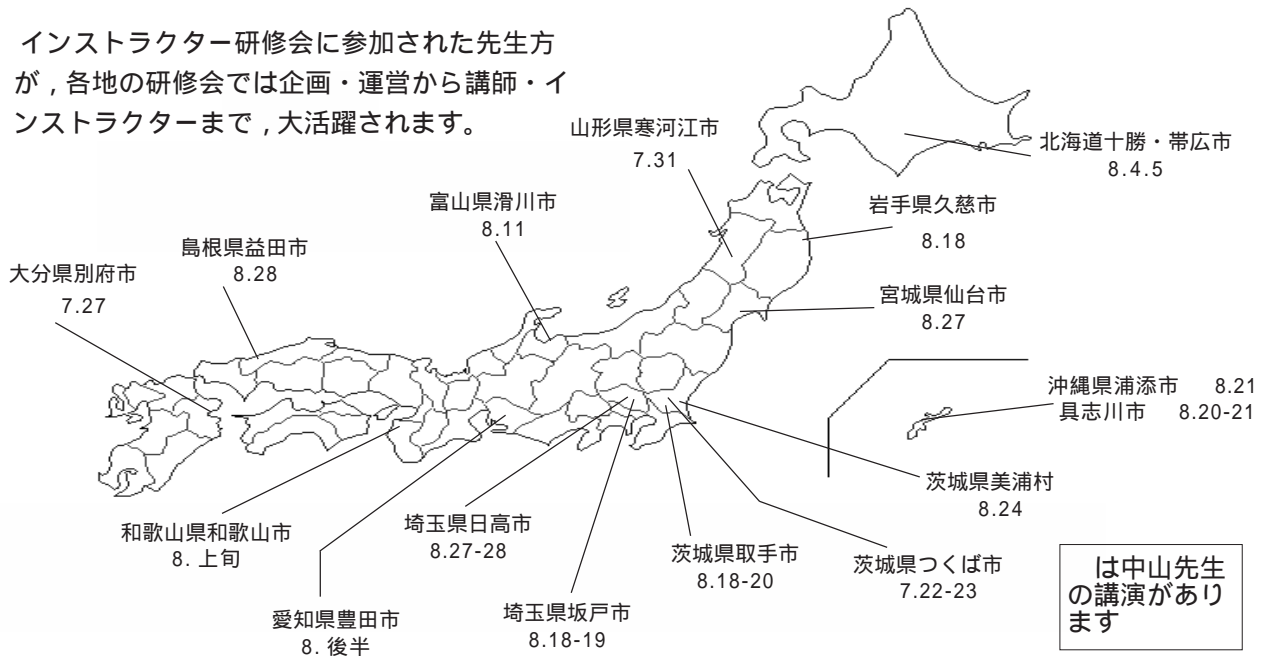


只今、研修計画作成中の
受講生の先生方



スタディ地域研修会 & 講演会

インストラクター研修会に参加された先生方が、各地の研修会では企画・運営から講師・インストラクターまで、大活躍されます。



中山先生の講演があります

盛況です！！

スタディノート メーリングリスト

東京家政学院筑波女子大学の余田先生がオペレーションされている「スタディノート・メーリングリスト」が盛況です。スタディノートを使った授業の報告あり、スタディノートおよびネットワーク全般に関する質問と解答あり、余田先生からの資料提供やプレゼントもあり、スタディノートの裏テクニク(?)あります。

メーリングリスト参加を希望される方は、
yoden@cs.kasei.ac.jp
へ、次の内容のメールをお送り下さい。
・Subjectに「メーリングリスト参加希望」と記入
・本文には所属・連絡先(住所、電話番号)・名前(ふりがな)を記入
ご質問、お問い合わせも上記アドレスへお願いいたします。

どんなやり取りが行われているか、ちょっとご紹介いたします。

《7月17日八王子市立柏木小学校の五十嵐先生からメールが来ました。タイトルは、近況報告となっていました。貴重なスタディノート実践報告です。》

[スタディノート・メーリングリスト] <http://www.kasei.ac.jp/eco/ECONews.html>

私は、今年度は理科専科ではなくて5年生の担任をしております。どんな風にスタディノートを活用しようかと考えているところです。
子どもたちと、スタディノートとの第一回目の出会いの時間は5月。2月の筑波での研修を参考にさせていただきました。「スタディノートとは……」というキャッチフレーズを考えて
親情報としてデータベースにのせ、いいと思ったものに「賛成」という子情報を入れる……そんな

研修がありましたね。それを応用してみました。クラスで飼っているモルモットの名前を1人ずつ考えて親情報としてデータベース上で投票したのです。これは大変おもしろかったです。児童はコンピュータで投票できることに感激していました。簡単にデータベースの使い方を理解させることができました。

2回目は(6月)スタディノートで学級会を開いてみました。児童会からの提案「学校生活で困っていること、お願いしたいこと」を、それぞれがノートに簡単にまとめて親情報とし、それに対する意見を子情報として入れました。日頃発言の目立たない児童も話し合いに積極的に参加できおもしろかったです。

今後も、コンピュータにおける対話とは……ということを考えながらいろいろ実践していこうと思っています。みなさんのいろいろな実践を、もっともっと知りたいと考えています。これからもよろしくご指導ください。

五十嵐俊子

《すぐに、兵庫県氷上郡崇広小学校の堀先生から返事です。》

[スタディノート・メーリングリスト] <http://www.kasei.ac.jp/eco/ECONews.html>

五十嵐先生ありがとうございました。

日頃目立たない児童の積極的に……ということ実感します。コンピュータにおける対話とは……いいテーマですね。

私は、今、算数でデータベースを活用し始めました。6年生なのですが、普通の授業では、全く考えもノートに書かない発表もしないという児童が休み時間までコンピュータ室に行って自分のノート(スタディノート)に表現しようとする姿を見てその見方が変わってきました。

今後も実践を紹介して下さい。堀 博文

《こちらはAC北海道の高橋裕幸先生がメーリングリストで送られた質問に対する、余田先生の返事です。》

[スタディノート・メーリングリスト] <http://www.kasei.ac.jp/eco/ECONews.html>

余田@筑波女子大です。

高橋先生、こんにちは。

At 10:06 PM 98.7.10 +0900, 高橋 裕幸 wrote:

>うちの子供から私のところに来たメールにあった質問
>問なのですが、間違っって送ってしまったメールを消
>すことはできないかということです。まだ相手が読
>んでいない時点で、送り主が消すことはできないの
>でしょうか。まだ慣れないので、適当にクリックし
>たりして、間違っって送ってしまうことがあるよう
>です。十分注意はしているのですが。

世の中のたいていのメールがそうであるように、スタディノートのメールも現在のところ、一度送ったものは取り消しできません。

ハラハラ・ドキドキでメールを送るのでなく、もっと気軽に送るようにしてもらえればいいのですが...。へんなメールを送ったことに気づいたら「ごめんね」というメールを送るという方法で対処するとか...

「電子メールは他人に読まれる可能性がある...、他人に読まれて困るものは電子メールで送らない」ということの体験的学習(一種の情報教育)になるかもしれません。

ただ、スタディノートは設計理念として「子どもに無用な失敗経験を与えない」ということを掲げております。例えば、エラーメッセージでなく、「どう対処すればよいかを知らせる」ヒントメッセージが表示されるのはそのためです。

ですから、この件についても、他の先生方から要望が多ければ、対応を前向きに考えたいと思います。

皆さん、この件について、どう思われます？

6

余田義彦(よでん・よしひこ)



このキャラクターたちは、メーリングリスト参加者への余田先生からのプレゼントの一部です。

STUDYSERIES ニュース

by sharp system products co.Ltd.

スタディシリーズVer.3のお知らせ

スタディネット、スタディタイム、スタディノートのVer.3へのバージョンアップに伴う変更点のお知らせです。

《余田先生から、研修会用資料をホームページ上に公開したお知らせと解説です。》

[スタディノート・メーリングリスト] <http://www.kasei.ac.jp/eco/ECONews.html>

余田@筑波女子大です。

今年の夏に研修会等の講演で使うプレゼン資料をPDF化しました。

今日、塩尻の研修会で使ったのもこれです。

PDFファイルを表示・印刷するには、アドビ社のアクロバットリーダーが必要です。

ここで入手してください。(無償)

<http://www.adobe.co.jp/product/acrobat/readstep.html>

FTPサーバーに入れておくと同時に、WEBでも取れるようにしておきます。プレゼン資料だけを見たのではよくわけがわからないと思いますので、ホームページでリンクは張っておりません。

私が講演に行く予定のところの方は、URLを入力して表示・印刷して配布資料としてお使い下さい。

(中略)

参考 - - - FTPとは、解凍とは。

FTPとはインターネットでファイルをやりとりするためのしくみです。FTPは、file transfer protocolの略ですが、ファイル転送プログラム程度に理解しておいてもらえると、わかりやすく覚えやすいと思います。

FTPでファイルを手に入れるには、FTPのプログラムを手に入れる必要があります。私は、FTP Explorerというソフトを使っています。このソフトはシェアウェアですが、教育関係者に対しては有り難いことにフリーです。

入手方法ですが、窓の森を利用されるのがよいと思います。FTP Explorerは にあります。マニュアルもここで入手できます。

<http://www.forest.impress.co.jp/ftp.html#ftpx>

(中略)

FTPで入手できるファイルの多くはLZHという方法で圧縮がかかっています。これを解凍して使えるようにするには、LHMeltというソフトがお勧めです。

ここで入手できます。フリーソフトです。

<http://www.forest.impress.co.jp/archiver.html#lhmelt>

使い方など、わからないことがありましたら、このメーリングリストで質問して下さい。

--

余田義彦(よでん・よしひこ)

スタディネット

- ・教材、学習記録簿、名簿の基本ディレクトリにネットワークパスを設定できるようになり、ネットワークドライブの割り当てをする必要がなくなりました。

- ・教材、学習記録簿、名簿を選択する操作画面が変わりました。

- ・授業開始時の教材選択は、「環境の設定」で設定した基本ディレクトリより下のディレクトリにある教材のみ選択できます。基本ディレクトリより上に行ったり、ドライブを切り替えることはできません。

- ・32ビットアプリケーションソフトとなりました。

スタディタイム

<スタンドアロン型・ネットワーク型共通>
・教材, 学習記録簿を選択するインター



フェースを変更しました。学習を終了するのに、F1キー終了に加え、メニューバーを表示し、メニューからも終了できるようになりました。
・フロントエンドからの入力が回答欄上でできるようになりました。

・32ビットアプリケーションソフトとなりました。
<ネットワーク型のみ>
・スタディネットの「環境の設定」の教材基本ディレクトリに設定する内容によって、ネットワーク型スタディタイムの教材ディレクトリに設定する内容が変わります。

1. スタディネットの教材基本ディレクトリにネットワークパスを指定した場合
スタディネット ¥SERVER¥STUDY¥COURSE
スタディタイム 空白
2. スタディネットの教材基本ディレクトリにドライブを含んだパスを指定した場合
スタディネット D:¥STUDY¥COURSE
スタディタイム E:¥STUDY¥COURSE

スタディノート

1. サーバ

インストール

・都道府県や市町村名を入力し、小学校か中学校かその他かを選択する機能が追加になりました。
・小学校か中学校かによって学年, 科目, 掲示板の内容が変わります。その他を選んだ場合は、小学校と同じです。

ユーティリティ

【掲示板】

・永久保存や, 追加変更の禁止を設定できるようになりました。

【名簿作成】

・「クラス名」で設定したクラスのみを編集できるようになりました。パスワードを設定したり, ノートディスクを作成できます。

【年度更新】

・旧年度の名簿を新年度のクラスに組み替え, 新年度のクラスで利用できるようになりました。(年度更新で, 名簿が新年度用に変換されます)
・旧年度で利用していたノートディスクやメールを新年度でも継承して利用する場合は, 必ず年度更新を行って下さい。

【クラス名】

・クラス名を設定できるようになりました。

【HTMLへの変換】

・掲示板, データベースの内容をHTMLに変換できるようになりました。

2. クライアント

起動画面の選択

・インストール時に小学校か中学校かその他の選択が追加になり, その指定により, 起動時のタイトル画面が変わるようになりました。その他を選んだ場合は小学校と同じ画面です。

ログイン

・ログイン時にノートディスクを利用するのに加え, パスワードを使って認証を行なえるようになりました。ノートディスクを利用しない場合は,

確認画面にパスワード入力が表示されます。

その他

・情報をリストから選択する方法が, ダブルクリックに加えシングルクリックにも対応し, 「決めた」ボタンで選択できるようになりました。

ノート

【読もう】

・「印刷」ボタンが追加されました。画面の印刷ができます。

・「クリップボードへコピー」ボタンが追加されました。表示されている内容をクリップボードへ登録できます。

【書こう】

・「マルチメディア」ボタンが追加されました。「バックに絵・写真をならべよう」「バックに音を入れよう」「文を入れよう」「絵・写真を入れよう」「音ボタンをつけよう」「ビデオボタンをつけよう」「その他ボタンをつけよう」「新しい絵を作って入れよう」「音ボタンをつけて録音しよう」があります。

・「フォルダ」ボタンが追加されました。

「このコピーを自分のフォルダに入れよう」「自分のフォルダを整理しよう」「このコピーをみんなのフォルダに入れよう」「みんなのフォルダを整理しよう」があります。

・「絵をかこう」ボタン機能が変わりました。背景を描く場合, ノート専用エディタで画面を作成できるようになりました。

・終了時に書き込まずに終わることができるようになりました。

データベース

・データベースの一覧に, 学校名が表示されるようになりしました。データベースの一覧は, データベースの読みがなで並び替えられ, 最後に調べたデータベースが一番上に表示されます。

・「調べよう」の中の「ならべかえ」ボタンがなくなり, 「その他」ボタンの下に「古い情報を上に」と「新しい情報を上に」ボタンが入りました。

・「その他」に「** 情報追加変更状態の切替 **」ボタンが追加されました。データベースの内容の追加変更を許可したり禁止したりできます。

スタディシリーズホームページ開設

スタディシリーズの詳細をホームページでも紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.sharp-ssp.co.jp/products/study/index.htm>

Windows98への対応について

7月25日に発売のWindows98にも対応してまいります。

ECO News No.56の発行が, 大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。遅れているうちに, インストラクター研修会に続いて中央研修会も無事終了いたしました。No.57では中央研, 地域研の報告を載せる予定です。

お盆を過ぎると, もう新学期が始まる地域の先生方, これからスタディ研修会を迎えるという先生方, 暑さに負けずに, 頑張りましょう。

ECO News

21世紀教育研究所



〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-3-10
0298-50-3321 fax0298-50-3330
e-mail econews@green.ocn.ne.jp
URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp/>